

JSPS Information

◇第18期第1回惑星科学専門委員会議事録

◇第18期第1回惑星科学専門委員会議事録

日 時：平成12年10月24日(火) 10:05～11:50

場 所：日本学術会議第5会議室

出席者：中澤，土山，本蔵(以上委員)，加藤，香内，
水谷，向井，塚本(以上オブザーバー)，西田
(学術会議会員)，鈴木，中野(事務局)

配付資料1：「本専門委員会委員，オブザーバー名簿」

配布資料2：「第17期本委員会からの申し送り事項」

配付資料3：「日本学術会議の研究連絡委員会及び専門委員会について」

議事に先立ち，西田学術会議会員の司会で，互選により中澤委員が委員長に選出された。次に，委員長より本専門委員会設置の経緯及び委員の紹介があり，連絡先等の確認を行った。

報告：

中澤委員長より配付資料2に基づき，17期本専門委員会からの申し送り事項の説明があった。この報告に関連して西田会員より「国際組織との対応」の具体的な内容について質問があり，惑星科学専門委員会と直接対応づけられるような国際組織，例えばIUGGの下部組織の構築を目指した準備に入るとの意味である旨，回答があった。

議事：

議事に先立ち，委員長より「本委員会は委員3名，オブザーバー6名で構成されているが，第17期と同様，可能な限り委員・オブザーバーを同格として委員会を運営していきたい」旨提案があり，了承された。また，

「研連や委員会は，シンポジウムを開催したり，「対外報告」を発信できる機能を持っているので，そのことも念頭において今後議論して欲しい」旨委員長より要請があった。

1. 科研費実態調査について

第17期からの申し送りに従い，惑星科学分野研究者の科研費申請状況に関する基礎資料を収集するためのWGを作ることが検討された。このWGの目的は，惑星科学分野研究者がその研究活動に相応した研究費を得る環境が整っているかどうか，その現状を把握し，必要があれば改善策を探るための基礎調査を行うことにある。この背景として，既存の学問領域出身ではない優秀な惑星科学研究者が増加しつつある現状がある。

検討の後，当専門委員会の下にWGを設置し，学会等を通じてアンケート調査を行うこととなった。WGは中澤，香内，土山，塚本の4名で構成し，そこでアンケート原案を作成，当委員会委員，オブザーバーに諮った後，アンケート調査を実施することとなった。

上記検討に関連して以下のような意見が出された。

- ・アンケートを実施するにあたって，申請状況，採択状況だけでなく，「惑星科学」の細目があればそこに申請するかどうか，聞いておくべきである。
- ・アンケートは，日本惑星科学会会員を対象に実施するのが現実的である。
- ・日本学術会議は「調査費」を持っておらず，アン

ケート実施に当たって財政上の問題がある。学会などの協力を仰ぐ必要があろう。

- ・単に数字を出せばよい、というのではなく、将来に繋がるようなアンケートにして欲しい。
- ・最近、地球電磁気・地球惑星圏学会で科研費の申請状況についてアンケート調査を行ったところ、細目『超高層』ではなく、『気象』や『天文学』、『プラズマ理工学』に申請している超高層分野の研究者もいることが分かった。

更に、「科研費審査員がこの委員会から推薦されているか」との質問があり、「推薦されていない」旨の回答があった。

2. 科研費細目の見直しについて

前記、科研費実態調査に関連して、水谷オブザーバーより「現在文部省が進めている「科研費細目の見直し」がどのような進捗状況にあるのか教えて欲しい」旨要請があった。本委員会出席者の中には、「細目見直し検討委員会」に直接関わっている者がいないため、「個人的に知り得た情報」と断った上で、以下のような報告、コメントがあった。

- ・細目の見直しはされているが、抜本的な改革は行わないとの見方もある。地球科学に限って言えば、申請件数の少ない（概ね100件以下の）細目の統合等が議論されている模様である。また、科研費の分野分けを学振で採用している区分けに変えることも検討の対象となっているようである。
- ・現在の『超高層』の細目を『惑星科学』を含む方向で変更できないかどうか、非公式に電磁気研連に対し打診があり、昨日の研連で話し合われた。現在のところ電磁気研連内で意見の一致は見られていないが、継続して審議中である。
- ・地球科学分野は広いので、各分野毎の研究者数は相対的に少数となる。もし、申請数が少ないという理由だけで単純に細目を統合すれば、適格な審査員による適正な審査が行われない場合が増える可能性が高い。これは本質的な問題である。

- ・新しい細目を目指すのはよいが、細目『惑星科学』と他分野の細目は区分け上整合しないのではないかと、『惑星科学』に対置されるのは『地球科学』ではないかと、地球科学分野の細目を横断的に束ねた形で細目『惑星科学』を作るという考えもある。
- ・以前に実行した時限細目「惑星科学」に関してきちんと評価しておく必要がある。
- ・細目がいくつかにまたがって「・」で組み合わせられるのもいかなものか。
- ・適正な評価を行うためには、広い教養と知識をもつ人材を育てる必要がある。

3. 専門委員会の運営について

当該委員会運営についてフリーディスカッションを行った。主な意見は以下のとおり。

- ・研究費確保は分野のアクティビティと直結していることから、本委員会でその方策を考えておくことは重要である。
- ・この専門委員会の国際対応は必要であろう。
- ・惑星科学分野ではSELENEなどのミッションに関して基礎研究費枠がない。JEM では地上基礎研究費の枠がもうけられている。ミッションに付随して、基礎研究費枠は是非とも必要である。
- ・ミッションを行うための基礎研究費が得られないのは制度自体の構造的問題があるのではないかと、この構造的問題を見直すためには具体案をもって適切どころに申し入れる必要がある。

これらの議論を通じ、中澤委員長より「惑星科学全体のアクティビティを高めるような観点から意見をとりまとめることを今期運営基本方針としたい」旨、発言があった。

4. その他

次回委員会を2001年2月23日（金）13:30-15:30に行うこととした。